

授業科目名： 看護学研究法特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川 まり子，藤原 奈佳子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
研究の基本的なデザインを学び、自立した実践リーダー・管理者・教育者になるために看護の実践や教育の場において専門的な知識・技術の向上、ケアプログラムやケアシステムの改善・開発など実践的研究活動が行われるようにする。			
授業の概要			
国内外の文献で、先行研究のレビューをして、研究の新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究テーマと研究目的に合致する研究デザインを選択する。			
研究の方法として疫学的手法を取り入れた量的研究法、質的研究法、実験的研究法、Mix Method法を学び研究の進め方、研究デザインの組み立て方、倫理的配慮と申請方法、データの収集方法、考察、結論の書き方を含めて研究プロセスにおける研究の質管理方法、研究論文作成方法について学修する。			
授業計画			
第1回 クオリティーの高い文献検索の実際と管理（特に和論文）、 研究のタイムスケジュールの立て方（藤原/1回）			
第2回 文献検索の実際と管理（英語論文）、 文献管理ソフトの実際、クオリティーの高い論文誌の選択（特に英文誌）（西川/1回）			
第3回 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基本（1）： 研究デザインの選択（西川）			
第4回 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（2）（西川）			
第5回 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（3）（西川）			
第6回 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（4）看護の知識・技術の向上 ・開発をめざす介入研究法。介入研究の登録の意義と実際の方法（西川）			
第7回 理論に基づいた質的研究法：質的研究とは（5）（西川）			
第8回 理論から実践への質的研究法：質的研究を実践するために 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な質的研究法と混合研究法（6）（西川）			
第9回 科学者としての研究倫理 と 研究倫理審査申請書作成（藤原）			
第10回 文献クリティークの基礎（1）：質的研究法を含む（藤原）			

- 第11回 文献クリティークの基礎（2）：量的研究法を含む（藤原）
 第12回 文献クリティークの基礎（3）：実験的研究法を含む（藤原）
 第13回 文献クリティークの基礎（4）：混合研究法を含む（西川）
 第14回 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点（1）（藤原）
 第15回 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点（2）（藤原）

テキスト（授業で使用する本）

- ・医学的研究のデザイン（第4版）メディカルサイエンスインターナショナル
ISBN978-4-89592-783-3
- ・佐藤郁哉，フィールドワーク一書を持って街へ出よう（ワードマップ）単行本，新曜社
ISBN-13：978-4788510302
- ・ジョン・W・クエスウエル，早わかり混合研究法，ナカニシヤ出版社，
ISBN978-4-7795-1192-9C3011

参考書・参考資料等

上記以外について、教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。

学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。

学生に対する評価

1. 授業中の質疑・討論 40% 2. 情報収集と分析 30% 3. まとめのレポートと発表討論 30%

授業科目名： 疫学統計学M I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 箕浦 哲嗣
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
医療、看護および保健の分野で必須である統計学について、量的研究の論文を読解できるようになることを目的に、記述統計および推測統計を理解する。また、医療分野で多く使われている多変量解析に関しても教授する。			
1. 保健医療データを統計分析する上で基本となる分布や基本統計量についての理解			
2. 基本的な検定の考え方についての理解			
3. 相関係数と母相関検定の考え方の理解			
4. 多変量解析の初歩についての理解			
授業の概要			
本講義は記述統計だけでなく、推測統計の基本である母平均・母比率の推定、平均値の差の検定および比率の差の検定、さらに重回帰分析をはじめとする多変量解析の初歩までを範囲として、実際にExcel、SPSSあるいはEZRを用いて計算しながら理解を深める			
授業計画			
第1回 統計学の基本的概念（保健統計の必要性、データの種類）			
第2回 記述的解析（度数分布、特性値、散布度、質的データの記述的解析）			
第3回 記述的解析（グラフの作成、統計的推論の準備）と論文上の標記の解釈			
第4回 分布（色々な分布、確率分布、正規分布の基礎）			
第5回 統計的推論（母集団平均の点推定と区間推定、割合の推定）			
第6回 統計的推論（割合の推定）、仮説検定の考え方			
第7回 平均値の差の検定（母集団と標本とのつの比較）			
第8回 平均値の差の検定（2つの母集団の平均値の差の検定）			
第9回 分散分析法、ノンパラメトリック検定			
第10回 比率の差の検定（分割表による検定、カイ二乗検定）			
第11回 相関と回帰、母相関検定			
第12回 各種検定の演習			
第13回 重回帰分析、ロジスティック回帰分析について			
第14回 EZR による記述統計の算出、各種検定、重回帰分析およびロジスティック回帰分析			
第15回 まとめ			

テキスト

授業支援CMS（担当教員が準備）よりPDFファイルを事前に配布

参考書・参考資料等 なし

学生に対する評価

課題レポート70% 講義に対するアクティビティ30%

授業科目名： 疫学統計学MⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 箕浦 哲嗣
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
重回帰分析や因子分析をはじめとする各種多変量解析法を用いて、複雑に絡み合った物事を分かり易く理解する技術および証明する技術を習得することを目標とする。			
1. データを分析に適した形に加工出来る			
2. 高機能統計ソフトウェアの仕組みを理解する			
3. 算出される数値を適切に理解し、意味を述べる事が出来る			
授業の概要			
多変量解析（重回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、因子分析、パス解析）を中心とした統計分析法を演習形式で講義する。			
授業計画			
第1回 実際のデータに対するクリーニング方法、高機能テキストエディタの使い方			
第2回 SPSS の使い方（ケースの選択、値の再割り当て等）			
第3回 SPSS での独立サンプルの平均値の差の検定、対応サンプルの平均値の差の検定			
第4回 SPSS での一元配置分散分析と多重比較			
第5回 SPSS での相関係数の算出と分析、気を付けるべき点			
第6回 SPSS でのクロス集計とカイ二乗検定、イエーツの連続補正、Fisher の直接確率法			
第7回 効果量や検出力などの最近重要視されているパラメータの意味			
第8回 重回帰分析			
第9回 数量化理論Ⅰ類、ダミー変数の作り方と注意点			
第10回 ロジスティック回帰分析			
第11回 主成分分析			
第12回 探索的因子分析			
第13回 確証的因子分析と既存の尺度			
第14回 共分散構造分析の基礎			
第15回 EZR を使った各種分析と必要サンプル数の算出			
テキスト			
授業支援CMSよりPDFファイルを事前配布			

参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	
課題レポート70% 講義に対するアクティビティ30%	

授業科目名： 看護理論特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊順子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
看護理論の変遷とさまざまな理論の構造と特徴及び限界について知識を深めるとともに、看護理論の活用方法を探求し、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な論理的な思考能力を高めることを目的とする。			
1. 看護専門領域における看護の実践や研究の基礎となる看護理論や看護モデルを理解し、その特徴と限界について説明できる。			
2. 看護の具体的な実践の基盤となる中範囲理論の特徴を理解し、具体的な場面でどのように活用できるのかについて検討できる。			
3. 看護実践と看護理論と看護研究との相互の関連性について考察し、看護理論の意義と開発の必要性を検討できる。			
4. 特定の看護理論を用いて、具体的な事例の看護過程に適用して、その長所・短所を分析できる			
5. 看護理論が看護実践と看護研究にどのように貢献するのかについて説明できる			
授業の概要			
授業内容は、理論の定義とその生成過程、理論の変遷、看護大理論（発達モデル、ニード論、相互作用モデル、システムモデル、ケアリングモデル等）の特徴、実践の基盤となる中小範囲理論（患者の理解と援助のための発達理論・ニード論・ストレス・コーピング理論、危機介入モデル、ソーシャルサポート・システム論、症状マネジメントモデル等）、理論およびEBNの検索、理論開発の意義、などを含み、討議の積み重ねにより論理的思考を習得する。			
授業計画			
1. 看護理論の意義			
2. 看護理論の定義と用語の理解			
3. 看護理論の歴史的変遷（その１）			
4. 看護理論の歴史的変遷（その２）			
5. 看護大理論の構造と特徴（その１）：発達モデル、ニード論、相互作用モデル			
6. 看護大理論の構造と特徴（その２）：システムモデル、ケアリングモデル			
7. 看護理論（大理論）に関する課題の発表と討議（その１）			
8. 看護理論（大理論）に関する課題の発表と討議（その２）			
9. 中小範囲理論の構造と特徴（その１）：ストレス・コーピング理論、危機介入モデル			
10. 中小範囲理論の構造と特徴（その２）：ソーシャルサポート・システム論、症状マネジメント			

トモデル
11. 看護過程と看護診断分類・看護介入分類・看護成果分類（その１） 12. 看護過程と看護診断分類・看護介入分類・看護成果分類（その２） 13. 看護理論（中範囲理論）に関する課題の発表と討議（その１） 14. 看護理論（中範囲理論）に関する課題の発表と討議（その２） 15. まとめと課題
テキスト 1. 筒井真優美（2020）：看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院 2. 野川道子（2016）：看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業中の質疑・討議30％ 2. 情報収集・分析30％ 3. 課題に関する資料作成と発表40％

授業科目名： 看護教育特論M共通		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊順子
				担当形態： 単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標				
看護者としての倫理的態度を持って、看護実践における教育的機能を効果的に果たすために、教育心理学・教育学、看護教育学の基礎的知識を基盤とした看護実践能力とその資質を養う				
1. わが国の看護教育制度の歴史的発展にみられる特徴を理解し、現行大学のカリキュラムの課題をクリティークできる。				
2. 教授・学習過程における基礎的知識を理解し、体験学習理論の特徴について説明できる。				
3. 教育評価の基礎知識を理解し、実習評価時の留意事項について述べることができる。				
4. 看護学生の気質と特徴を理解し、対象に合わせた看護ケア技術教育の指導法および看護者としての倫理的態度の教育法について考察し、討議することができる				
5. 看護学生の実習環境に関する課題を挙げ、その対策について検討できる。				
授業の概要				
看護実践・教育における教育的機能を、看護者としての倫理的態度を持って効果的に果たすために教育心理学・教育学の基礎的知識を基盤とした能力・資質を養うことを目標とする。授業科目の内容は、教授・学習過程における学習理論、教育指導の方法論、教育評価、臨地実習指導方法、カウンセリング技法などについて教授するとともに、クライアント及び家族に対する介入指導計画の立案から評価に至るプロセスなどを含むものとする。				
授業計画				
1 日本の看護教育の現状と課題（教育制度・カリキュラム・指定規則）				
2 諸外国の看護教育の現状と課題（主に教育制度について）				
3 教授・学習過程における基礎知識と学習理論				
4 体験学習理論（アクティブラーニングを含む）				
5 教育指導の方法論（コーチングを含む）				
6 グループダイナミクスを支えるリーダーシップ理論				
7 対人関係を支えるカウンセリング理論				
8 対人関係を支えるカウンセリング技法演習				
9 教育評価				
10 実習環境と実習評価				
11 クライアント理解のための諸理論				

12 クライアントや家族に対する教育指導計画
13 教育指導計画案の作成
14 教育指導計画案の発表と討議
15 まとめと課題について討議
テキスト
1. 杉森みど里・舟島なをみ:看護教育学、医学書院、2016(第6版)あるいは最新版
2. 渡邊順子:患者の声から考える看護、医学書院、2020
参考書・参考資料等
学生に対する評価
1. 授業中の質疑・討議40% 2. 情報収集・分析30% 3. 課題に関する資料作成と発表30%

授業科目名： 看護倫理特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤千晴
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 看護倫理の意義と目的を理解する。 2. 倫理的課題の解決に向けた基礎的知識を理解する。 3. 倫理的課題の解決に向けて基盤となる諸理論・諸概念を理解し討議する。 4. 組織としての対策・取り組みについて理解する。 5. 自身の倫理的価値観を省察できる。			
授業の概要 看護倫理の意義や目的を理解し、現代の医療現場で遭遇する倫理的課題を探究する。また解決に向けて方法論を理解し、対応策を導き出す。さらに最近の看護倫理の研究動向を知り、議論することで省察する。			
授業計画 1. 感性と倫理・看護倫理の意義と目的・看護倫理教育の歴史 2. 現代の臨床倫理問題 3. 終末期医療における倫理的課題 4. 高齢者の意思決定支援 5. 看護者の倫理綱領とサラ T フライの倫理原則 6. 倫理的問題の解決方法・ナラティブアプローチ 7. 臨床倫理の4分割法を用いた事例展開 8. 4ステップモデルを用いた事例展開 9. 事例1（臨床経験から倫理問題を提起し、解決へ導く） 10. 事例2（臨床経験から倫理問題を提起し、解決へ導く） 11. 前半グループ 発表 12. 後半グループ 発表 13. 臨床での看護倫理教育の進め方・組織としての取り組み 14. 看護倫理に関する最近の研究動向 15. 看護倫理に関する最近の研究動向 まとめ			
テキスト その都度必要な資料は配布する			

看護倫理 南江堂
参考書・参考資料等
① 臨床倫理学 赤林朗、蔵田伸雄、児玉聡、新興医学出版社
② 看護者の倫理綱領 日本看護協会出版会
学生に対する評価
1. 授業中の質疑・討議40% 2. 情報収集・分析30% 3. 課題に関する資料作成と発表30%

授業科目名： 看護管理特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原奈佳子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1．看護管理に関する知識と諸理論を修得し、科学的思考力をもつ看護実践現場のリーダーとして組織力の強化に必要な知識・技術が理解できる。			
2．看護専門職の役割と機能を認識し、看護現場でおこる問題の解決手順を理解し適切な解決策の検討ができる。			
3．授業内容を含めて先行研究や既存資料の観察などを通した看護領域における現状分析、自身の体験事例などを統合させて、論点を伝えることができる。			
授業の概要			
医療現場で良質な看護サービスを提供するためには、看護組織、看護チームを構成する個々の看護職員が役割を認識し、円滑に看護実践を遂行することが求められている。本科目では、看護管理者として、看護組織力を強化し、効果的・効率的な看護ケアが実践できる知識・技術の修得をめざす。このために、看護管理に関する知識と諸理論を基盤とする科学的思考力を学び、組織的に問題を解決する方法を修得する。			
授業計画			
第1回：看護管理の概念と歴史的背景			
第2回：病院の看護管理の国内外の動向分析			
第3回：組織の構造と集団の機能			
第4回：組織分析と組織の改善			
第5回：自己のキャリア発達と組織におけるキャリア開発			
第6回：医療専門職の人的資源活用			
第7回：看護サービスの基本的概念と、看護サービスの提供過程			
第8回：看護実践における倫理的問題の把握と意思決定			
第9回：医療の質			
第10回：医療サービスの質評価			
第11回：集団力学（グループダイナミクス）の機能			
第12回：組織変革実践のプロセス			
第13回：人的資源の育成と効果的な教育、研修の企画			
第14回：労務管理			

第15回：看護をとりまく社会情勢（ディスカッション）

テキスト

その都度必要な資料は配布する

参考書・参考資料等

スティーブンP. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、 2009年
--

日本看護協会出版会、看護管理学習テキスト第1巻～5巻

学生に対する評価

1. 授業への参加状況30%	2. プレゼンテーション35%	3. 課題レポート35%
----------------	-----------------	--------------

授業科目名： 看護政策特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原奈佳子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1．保健・医療・福祉の主要な法律を概観し、これらの法律の基盤にたつヘルスケアシステムと現状の課題を理解し、看護政策について具体的な政策決定プロセスが理解できる。			
2．国内外の社会保障制度の軌跡を確認し、現在の課題と将来の福祉ビジョンについて検討することができる。			
3．社会保障に必要な費用やマンパワー、現状の課題を理解し看護職員需給見通し、看護職員確保対策について考察できる。			
4．国民のヘルスニーズと医療法改正を理解し、現状における政策課題が見いだせる。			
授業の概要			
看護制度と関連する政策課題について看護行政における政策活動や政策的な働きかけの方法、看護サービスに関する将来設計、看護職の政策的役割を探究する。看護の質向上と関係する社会保障のしくみや医療制度、医療保険制度、介護保険制度、診療報酬制度、医療法、保健師助産師看護師法などの法的基盤を理解し、看護の質向上のための課題を明確にし、その課題に効果的に取り組む政策決定のプロセス、看護行政における政策活動などの方策を提言できる力を涵養する。			
授業計画			
第1回：政策決定の過程			
第2回：政策提言活動			
第3回：日本の社会保障制度			
第4回：海外の医療状況			
第5回：社会保障関係費用の推移			
第6回：日本における社会保障関係の課題			
第7回：保健・医療・福祉に関連する主な法律とヘルスケアシステム			
第8回：社会保障に関する現状の課題			
第9回：保健師助産師看護師法の改正過程と看護基礎教育の変遷			
第10回：看護師等の人材確保の促進に関する法律と多様な雇用形態			
第11回：国民のヘルスニーズと医療法改正			
第12回：看護政策と職能団体			

第13回：看護の質向上のための課題と看護政策1（ディスカッション）

第14回：看護の質向上のための課題と看護政策2（ディスカッション）

第15回：まとめ

テキスト

その都度必要な資料は配布する

参考書・参考資料等

見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、2017年、定価2,090円

井部俊子監修、増野園恵編：看護管理学習テキスト、第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 2021年版、日本看護協会出版会、定価2,640円

学生に対する評価

1. 授業への参加状況30% 2. プレゼンテーション35% 3. 課題レポート35%

授業科目名： 国際保健看護学特論M共通		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川　まり子
				担当形態： 単独
科　目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標				
グローバル化の中で、国際的な視点に立って、ヘルス、医療や看護を学ぶ。そのために （１）世界の看護、看護師の移動に対して、より深くポイントを絞って学ぶ （２）世界の看護の動向、グローバルヘルスとその問題点 （３）世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGOの活動を理解する。 そのうえで、保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて自分の意見を持つことができるようにする。				
授業の概要				
国際的な視点を踏まえた内容がそれぞれの研究の中に評価される形で組み込まれるように学ぶ。さらに、将来、国際社会において国内外でヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶ。授業は、初心者にも理解しやすいように、世界のエリアを地図上で世界を旅しながら、国際保健看護の専門的な知識を学ぶ。内容は、まず、（１）世界の看護師の移動として、看護師の国境を越えた移動状況（メリーゴーランド）、利点、問題点をアメリカ、日本、イスラム圏（ほとんどの看護師が外国人）を中心に深めて学ぶ。（２）世界の看護の動向として授業計画の①～⑧に示すように北米、南米、オーストラリア、ヨーロッパ、ロシア、アジア、アフリカ、中東から国を選び、そのヘルス、医療と看護の特徴を深める。（３）グローバルヘルスとその問題点、世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGO。そのうえで、保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができる。国際的にみて日本の看護の特徴、日本の看護が国際社会に与える影響、役割、国際貢献として果たすべき役割について考究する。DVDにより視覚的に教授しながら、レポートを作成して討論により、具体的に修得できるようにする。				
第１回　国際保健看護学の総論：国際保健看護学を深める理由。世界の看護師や医療者の移動（看護のメリーゴーランド）：看護師の国境を越えた移動状況、その利点と問題点				
第２回　世界の看護の動向①：アジアのヘルス、医療、看護				
第３回　世界の看護の動向②：オーストラリアのヘルス、医療、看護				
第４回　世界の看護の動向③：アメリカのヘルス、医療、看護				
第５回　世界の看護の動向④：カナダ、南アメリカのヘルス、医療、看護				
第６回　世界の看護の動向⑤：ヨーロッパのヘルス、医療、看護				

第7回 世界の看護の動向⑥：ロシアのヘルス、医療、看護 第8回 世界の看護の動向⑦：アフリカのヘルス、医療、看護 第9回 世界の看護の動向⑧：中東のヘルス 第10回 保健や看護に関する国際機関や職能団体①： 国際機関や国際的な職能団体の考え方、ICN 第11回 保健や看護に関する国際機関②：UNICEF UNFPA WHO, 世界銀行 第12回 国際機関で働くためのヒント：必要な事柄 第13回 保健に関するNGO：国際的な動向、近隣での活動 第14回 プレゼンテーションのまとめ 第15回 まとめ
テキスト 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 UNICEF『世界子供白書』最新版 UNICEF『基礎リーフレット』最新版
参考書・参考資料等 デイヴィッド ワーナー，若井 晋（翻訳）『いのち・開発・NGO』1998，新評論ISBN13:978-4794804228 西川まり子『目で見える国際看護』DVD I，II，III，医学映像教育センター X3 その他の論文資料は、適宜配布
学生に対する評価 1) 講義内容のレポート作成 30% 2) テーマごとの発表・質疑・討論 30% 3) 国際保健看護に関することや国際保健看護の今後に向けての提言レポートと発表40%

授業科目名： フィジカルアセスメント特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠崎 恵美子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. フィジカルアセスメントの概念について理解する			
2. 看護におけるフィジカルアセスメントの必要性を理解する			
3. 生命維持に関するフィジカルアセスメントを実践できる			
4. 生活を支えるためのフィジカルアセスメントを実践できる			
授業の概要			
様々な疾患の早期発見・予防を目的としたフィジカルアセスメントの知識・技術を修得する。具体的には、看護実践現場で遭遇する患者の訴えから、インタビュー・フィジカルイグザミネーションにより情報を収集し、アセスメントするということを事例により学習する。また各自が事例を作成することにより、患者の訴えに対応し、生命維持や生活を支えるために必要なフィジカルアセスメントについて理解を深める授業を展開する。			
授業計画			
第1回：フィジカルアセスメント総論：ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、看護実践におけるフィジカルアセスメント（講義）			
第2回：生命維持に関するフィジカルアセスメント「看護介入の実際」（講義・演習）			
①事例をとおして、患者の訴えからアセスメントをするために必要な情報を検討する			
第3回：生命維持に関するフィジカルアセスメント「看護介入の実際」（演習）			
②事例をとおして、患者の訴えからアセスメントをするために必要な情報を収集する			
第4回：生命維持に関するフィジカルアセスメント「看護介入の実際」（演習）			
③事例に対して集めた情報からアセスメントをする			
第5回：生命維持に関するフィジカルアセスメント「看護介入の実際」（講義・演習）			
④事例に対して集めた情報からアセスメントした内容をディスカッションする			
第6回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの事例を作成する（演習）			
第7回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの事例を作成する（演習）			
第8回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの事例を作成する（演習）			
第9回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの実際（講義・演習）			
①各事例についてインタビューとフィジカルイグザミネーションを実施する			
第10回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの実際（講義・演習）			

①各事例についてインタビューとフィジカルイグザミネーションを実施する	
第11回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの実際	（講義・演習）
①各事例についてインタビューとフィジカルイグザミネーションを実施する	
第12回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの実際	（演習）
②各事例についてアセスメントする	
第13回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの実際	（演習）
②各事例についてアセスメントする	
第14回：生命維持や生活を支えるためのフィジカルアセスメントの実際	（演習）
②各事例についてアセスメントする	
第15回：看護に必要なフィジカルアセスメントを考える	（講義）
テキスト その都度紹介する	
参考書・参考資料等 その都度紹介する	
学生に対する評価	課題成果物により評価する

授業科目名： 病態生理学特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田美智男
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
① 疾患理解のための、病態生理に関する基礎的な知識と考え方を学ぶ。			
② 疾患に対する病態生理の知識を応用し、理解を深める			
授業の概要			
専門的な看護ができる基礎的知識を身につけるために、感染症、膠原病・免疫疾患、代謝・内分泌疾患、消化器疾患ならびに呼吸器、循環器、腎臓などそれぞれの領域の基本的な疾患についてとりあげ、病態生理について演習形式で双方向講義を行い、理解を深めて基礎的知識を身につける。			
授業計画			
1 免疫：免疫の機構、アレルギー疾患、膠原病			
2 自己免疫疾患、免疫不全			
3 感染症：ウイルス感染症、細菌感染症、敗血症、臓器別感染症			
4 炎症と修復：炎症性マーカー、発熱、SIRS、ショック			
5 代謝異常：糖尿病、脂質異常症、痛風			
6 体液の異常：電解質異常ならびに酸塩基平衡の異常に関わる疾患			
7 内分泌疾患：各種ホルモンの分泌異常による疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患 副腎疾患			
8 循環障害：高血圧、うっ血性心不全、塞栓症、梗塞			
9 血液疾患：貧血、凝固異常症、白血病、リンパ腫			
10 消化器疾患1：消化管の癌、炎症性腸疾患			
11 消化器疾患2：肝、胆、膵の癌、肝炎、肝硬変、胆管感染症、膵炎			
12 呼吸器疾患：COPD、気管支喘息、肺癌			
13 腎臓・膀胱・前立腺の疾患、女性生殖器の疾患：腎癌など各臓器の癌および良性腫瘍 糸球体腎炎、腎不全			
14 脳・神経系疾患：脳血管障害、神経変性疾患、末梢神経疾患、神経系感染症、神経系腫瘍			
15 運動器疾患：骨疾患、関節疾患、脊椎・脊髄の疾患			
テキスト			
臨床病態学：総論、1巻、2巻、3巻、（第2版、2013年発行、ヌーヴェルヒロカワ）			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

毎回の講義の出席とプレゼンテーション 50%、課題に対するレポート提出 50%

など積極的参加を総合的に評価する。

授業科目名： 発達心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂本真也
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
人間の誕生から死に至るまでの一生涯の発達過程について、ライフサイクル全体を通して捉えていくことを目的とする。また、自己の発達や対人関係（親子関係、友人関係など）の発達に関する諸理論に加え、社会・文化的側面や重要なライフイベントなどにも焦点を当て、各発達段階で直面する心理・発達の危機および発達障害の特徴について把握し、これらのケアのあり方について検討する。 1. 乳児期から老年期までの各発達段階の心理学的特徴を踏まえ、関連する発達理論との関係を理解することができる。 2. 各発達段階で直面する心理・発達の危機および発達障害の特徴を捉えた上で、対人関係を考慮し、これらに対する支援の提案ができる。			
授業の概要			
乳児期から老年期までの各発達段階について、知能、認知、言語、情緒などの自己の発達や対人関係の発達に関する理論を取り上げて解説していく。併せて、各発達段階と関連する社会・文化的要因や主要なライフイベントにおける影響についても概観する。さらに、乳幼児期から児童期にかけて問題として挙げられる不適応の問題および発達障害の特性理解およびその支援について、3歳児健診や学校現場での多職種連携（保健師や心理士など）を参考に支援に関する実践的な理解を深めていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：心の発達の捉え方			
第3回：乳幼児期①（身体的発達と自己感の芽生え）			
第4回：乳幼児期②（母子相互作用、愛着形成、発達のつまずきとケア）			
第5回：乳幼児期③（身体的運動発達、対人関係の発達、遊びの発達）			
第6回：児童期①（知能の発達、社会性の発達、友人関係）			
第7回：児童期②（学校適応と心理的問題）			
第8回：発達障害（DSM-5による診断基準、アセスメント、二次障害の支援）			
第9回：青年期①（思春期の心理発達、親子関係、友人関係）			
第10回：青年期②（心理的障害の理解）			

第11回：青年期③（アイデンティティと職業意識）

第12回：成人期①（子育て，母親・父親意識の形成）

第13回：成人期②（中年期危機，介護と看取り）

第14回：老年期（心と体の変化，生きがいと幸福，死の受容）

第15回：まとめ（発達全体の理解および支援の総括）

テキスト

配布資料

参考書・参考資料等

1. 本郷一夫編（2018）．発達心理学．遠見書房
2. 林創編（2019）．発達心理学．ミネルヴァ書房
3. 岡本祐子・深瀬裕子編（2013）．エピソードでつかむ生涯発達心理学．ミネルヴァ書房
4. 永井徹（2005）．子どもの心理臨床入門．金子書房

学生に対する評価

1. 授業時の討論および課題レポート50%
2. レポート50%

授業科目名： 看護教育学特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠崎恵美子、伊藤千晴 山口貴子、服部美穂 原好恵
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. わが国の看護教育制度の歴史的発展にみられる特徴と課題について分析できる			
2. 看護学カリキュラム作成のプロセスを理解し、現行大学のカリキュラムをクリティークできる。			
3. 教授・学習過程における基礎的知識を理解し、体験学習理論の特徴について説明できる。			
4. 看護技術に関する教育の評価方法を理解し、考察することができる			
5. 看護技術に関する教育の指導案の基礎的知識を理解し、考察することができる			
6. 看護者としての倫理的態度の教育法について考察し、討議することができる			
授業の概要			
教育学や教育心理学などの諸理論を基盤として、看護教育学に関する基礎的概念や理論を修得し、基礎看護教育における基礎的知識、看護ケア技術、看護者としての倫理的態度を育成する指導方策を探究する。合わせて、諸理論やEBNなどの先行文献をクリティークすることにより、効果的な教育方法や教材の開発法などについて探究する。			
授業計画			
1 看護教育の現状と課題 （篠崎）			
2-3 看護教育制度と看護教育課程の変遷（篠崎）			
4-5 看護学カリキュラム作成のプロセス （山口）			
6-7 学習理論と学習方法 （伊藤）			
8-10 教育評価 （原）			
11-13 看護技術教育と学習（服部）			
14 看護基礎教育における看護倫理教育 （伊藤）			
15 まとめ （伊藤）			
テキスト			
必要に応じてその都度提示及び配布する。			
参考書・参考資料等			
1. 杉森みど里・舟島なをみ（2012）．看護教育学 第5版，医学書院．			
2. 近藤潤子、小山真理子訳（1988）．看護教育カリキュラム，その作成過程，医学書院．			

3. Kolb, D. A. (1984) . Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development,
Prentice-hall, New Jersey.

4. 佐藤みつ子, 宇佐見千恵子, 青木康子, 平の朝久. 看護教育における授業設定-指導案作成の実際, 医学書院

学生に対する評価

1. 授業中の質疑・討議40% 2. 情報収集・分析30% 3. 課題に関する資料作成と発表30%

授業科目名： 看護保健管理学特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原奈佳子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 院内のチーム医療における看護職の役割を理解できる。 2. 院内から院外への連携において多職種ならびに関連施設との連携のあり方を検討できる。 3. 院内外の多職種連携における看護実践リーダーの役割を理解し、患者のニーズを適切にアセスメントでき、看-看連携を中心とした課題を検討できる。			
授業の概要			
院内から院外へとケアが継続する看護保健管理上の課題に対処するために、看護実践リーダーとして、他職種・他部門・他施設・地域などとの協働・連携の役割・方法および連携システムの構築の要件とその活用法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：日本における保健医療福祉制度に関する動向と関連法規 第2回：海外における保健医療福祉に関する動向 第3回：地域医療構想と地域包括ケアシステム 第4回：地域包括ケアシステムにおける多職種連携 第5回：院外組織との連携と協働 第6回：チーム医療における医療専門職の役割 第7回：連携の効果的な運営、教育、協働 第8回：他職種との調整 第9回：児童における医療と児童福祉法 第10回：退院後に病的ケアが必要な児のケアの継続 第11回：退院後に病的ケアが必要な児の包括的支援 第12回：院内外の連携における実践リーダーの役割 第13回：連携と患者情報における倫理的配慮 第14回：患者の意向をふまえた療養生活を支援 第15回：まとめ			
テキスト			
その都度必要な資料は配布する。			
参考書・参考資料等			

石原ゆきえ他著：多職種協働事例で学ぶ退院支援・調整、日総研、2014年

細田満和子：「チーム医療」とは何か、日本看護協会出版会、2012年

田村由美：新しいチーム医療、看護の科学社、2012年

学生に対する評価

1. 授業中の質疑・討議30% 2. プレゼンテーション35% 3. 課題レポート35%

授業科目名： 看護教育管理学特別研究M I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 篠崎恵美子、伊藤千晴 藤原奈佳子、山口貴子 服部美穂、原好恵 担当形態： クラス分け・単独・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 演習において看護教育管理学に関する研究論文の検討を行い、履修者相互の専門的な知見を深める			
2. 演習において看護教育管理学に関する研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、決定できる			
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる			
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる			
5. 看護教育管理学分野の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を研究計画発表会で発表できる			
授業の概要			
看護教育・看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む、看護教育学・看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その分野で広い視点が持てるように、講義・演習を通じて指導を行う。専門的視点から科学的思考力と研究能力を持った、看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究計画発表会での発表を目指す。			
（篠崎・服部）基礎看護技術の根拠や教育方法、看護技術の習得・革新。			
（藤原）疫学研究および病院と地域を結ぶ退院支援システム。			
（伊藤）看護基礎教育の教育内容および看護倫理。			
（山口）基礎看護技術、患者のアセスメントに関すること			
（原）訪問看護師を対象としたフィジカルアセスメント、注射のケアに関すること。			
授業計画			
1 -20 講義・演習を通じて看護教育管理学に関する専門的な知見を深める。			
21-23 研究テーマと目的を決定：（自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。			

24-27	研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討
28-30	研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択
31-35	データ分析法の選択
36-41	研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法
42-48	研究計画書を作成
49-52	看護学研究科委員会による学生とテーマ関連教員参加の下「発表会」において準備・発表・討論
53-60	発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また看護教育管理学関連教員が参加し助言の下、研究計画書を完成する
テキスト	
・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。	
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	
1. 授業中の質疑・討議 10% 2. 文献クリティーク 20% 3. 情報収集・分析 30%	
4. 研究計画書の作成と発表40%	

授業科目名： 看護教育管理学特別研究MⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 篠崎恵美子、伊藤千晴 藤原奈佳子、山口貴子 服部美穂、原好恵 担当形態： クラス分け・単独・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 演習において、MⅠで得た知見を基盤に看護教育管理学に関する研究論文の検討を行い、履修者相互の専門的な知見をさらに深め、研究テーマにつなげる			
2. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる			
3. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる			
4. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる			
5. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる			
6. 研究目的から結論までの論旨の一貫性と信頼性・妥当性が確認できる			
7. 「中間発表会」「最終発表会」において、評価を受け、論文を修正することができる			
8. 学位論文を作成することができる			
授業の概要			
特別研究MⅡでは、講義・演習においてMⅠで得た知見を基盤として専門的知識をさらに深めるとともに、研究計画書に沿った看護教育・看護管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。広い視野を持ち、専門的視点から科学的思考力と研究能力と看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な能力を身につける。そのために研究を実施し、中間・最終発表会で研究について発表する過程を経て、研究論文を完成させる。			
(篠崎・服部) 基礎看護技術の根拠や教育方法、看護技術の習得・革新。			
(藤原) 疫学研究および病院と地域を結ぶ退院支援システム。			
(伊藤) 看護基礎教育の教育内容および看護倫理。			
(山口) 基礎看護技術、患者のアセスメントに関すること			
(原) 訪問看護師を対象としたフィジカルアセスメント、注射のケアに関すること			
授業計画			
1-10 演習を通じて看護教育管理学に関する専門的な知見をより深め、共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを紹介し、研究計画に沿って研究の実施準備			
11-20 研究の精度を保つ方法でデータを収集			

21-35	効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化し、研究結果に基づいて適切な考察と結論を導き論理的にまとめる
36-43	研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討
44-50	「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論
51-60	発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する
テキスト	
教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。	
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	
1. 授業中の質疑・討議20% 2. 課題に関する作成と発表80%	

授業科目名： 生涯発達看護学特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深谷久子、山根友絵、 宮田延実、中神友子
			担当形態 オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
人間の一生涯を発達のプロセスとしてとらえる生涯発達の観点から、発達段階各期の対象をめぐる現代社会の特徴をふまえ、人間発達に関する諸理論を用いて対象への質の高い看護実践への適用を探究する。発達段階各期における対象のさまざまな現代的課題を理解し、倫理的判断に基づき、対象の意思決定、セルフケア能力、QOLの向上をめざした援助方法を探究する。 【到達目標】 1. 対象の健康増進に関する諸理論について説明できる。 2. 諸理論と看護学との関係を説明することができる。 3. 関心領域に関連のある理論、概論、現象を分析し、課題を述べることができる。 4. 理論と既存の研究を用いて、対象への援助を考案することができる。			
授業の概要			
生涯発達を遂げる発達段階各期における対象理解を深めるために基盤となる諸理論に基づいて、対象の健康問題の把握方法や健康増進と質の高い看護実践への適用を探究する。また、対象の最善の利益を保障するための倫理的判断に基づき、さまざまな課題を抱える対象に応じた援助方法を考究する。さらに、時代の変化および日本の文化の中でこれらの理論を応用する上での課題を探究する。 【留意事項】 各回の授業テーマに関する事前学習を主体的に行い、授業に積極的に臨むこと。 1. 関連文献や資料に基づき、プレゼンテーション、ディスカッション等を通して主体的に学びを深める。資料は前日まで、あるいは当日に配布する。 2. 授業内容に沿った事柄をより深く学習できるよう、授業概要または配布資料に参考資料を記す。 【事前学習】 授業概要または配布資料に記した文献リストにある関連資料に目をとおり、要旨をノートにまとめる。 【事後学習】 授業内容をもとに自身の専門領域の視点から考察し、A4用紙1枚にまとめる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション／理論の説明（講義・討論）（深谷久子）			

- 第2回：発達理論（1）フロイト（自我）（発表・GW・討論）（宮田延実）
- 第3回：発達理論（2）エリクソン（発表・GW・討論）（深谷久子）
- 第4回：発達理論（3）ピアジェ（発表・GW・討論）（深谷久子）
- 第5回：発達理論（4）ボウルビー（発表・GW・討論）（深谷久子）
- 第6回：発達理論（5）総括（発表・GW・討論）（深谷久子）
- 第7回：子どもと家族をめぐる理論の課題学習（演習）（深谷久子）
- 第8回～第9回：発達障害とその支援（1）人間のライフサイクルと発達およびその支援（新生児期・乳児期）／発達障害とその支援（2）人間のライフサイクルと発達およびその支援（幼児期）
- 新生児期・乳児期・幼児期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検討する．現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する（発表・GW・討論）（深谷久子/2回）
- 第10回：発達障害とその支援（3）人間のライフサイクルと発達およびその支援（学童期）
- 学童期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検討する．現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する（発表・GW・討論）（宮田延実）
- 第11回：発達障害とその支援（4）人間のライフサイクルと発達およびその支援（思春期）
- 思春期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検討する．現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する（発表・GW・討論）（深谷久子）
- 第12回：発達障害とその支援（5）人間のライフサイクルと発達およびその支援（成人期）
- 成人期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検討する．現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する（発表・GW・討論）（中神友子）
- 第13回：発達障害とその支援（6）人間のライフサイクルと発達およびその支援（老年期）
- 老年期の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検討する．現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する（発表・GW・討論）（山根友絵）
- 第14回：生涯学習者としての経験／ライフサイクルにおけるキャリア発達（発表・GW・討論）（山根友絵）
- 第15回：学生の修得内容のまとめ、レポート作成（演習）（深谷久子）

テキスト

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

参考書・参考資料等

開講時、参考文献を提示し、随時授業で資料を配付する。

服部祥子（2020）：生涯人間発達論第3版，医学書院.

上田礼子（2012）：生涯人間発達学改訂第2版増補版，三輪書店.

舟島なをみ（2017）：看護のための人間発達学第5版，医学書院.

学生に対する評価

テーマに沿ったレポート課題の作成、授業中の質疑・発表・GW・討議、授業の参加状況、予習・復習

深谷50% 山根20% 宮田20% 中神10%

授業科目名：エンド・オブ・ライフケア看護学特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 亜妃子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
エンドオブライフやエンドオブライフケアに関する基礎的知識を基盤として、エンドオブライフケア看護学の科学的思考力と実践力の向上をめざす。			
1. 国内外のエンドオブライフケアの取り組みと課題について説明できる。			
2. エンドオブライフにあるがん、非がん患者の特徴について説明できる。			
3. エンドオブライフにある患者への全人的苦痛への看護介入の方法について述べることができる。			
4. エンドオブライフにある患者の家族や遺族へのケアについて述べることができる。			
5. 看護者として患者と家族の特徴に合わせた質の高いエンドオブライフケアの方法について考察し、討議することができる。			
授業の概要			
国内外におけるエンドオブライフケアの取り組み、ケアの実際について理解し、我が国の課題について検討する。エンドオブライフにある患者の QOL と QODD、がんと非がん（循環器疾患、呼吸器疾患、老衰）患者へのエンドオブライフケア、エンドオブライフにある患者と家族の生活環境の違いによるケアの特徴、症状マネジメント、意思決定支援、スピリチュアルケアなど、エンドオブライフケアに関する基礎的知識や看護について探求する。さらに、諸理論や EBN などの先行文献をクリティークすることにより、エンドオブライフケア看護学の科学的思考と実践力の向上をめざす。			
授業計画			
第1-2回：国内外のエンドオブライフケアの取り組みと課題			
第3回：エンドオブライフにある患者のQOLとQODD			
第4-5回：がん、非がん（循環器疾患、呼吸器疾患、老衰）患者へのエンドオブライフケア			
第6回：エンドオブライフにある患者と家族の環境（病院、在宅、ホスピス、高齢者施設など）の違いによるケアの特徴			
第7-8回：エンドオブライフにある患者の症状マネジメント			
第9回：患者の権利と意思決定支援			
第10回：死にゆく人の心理過程の介入方法とDying Patient（臨死患者）のアセスメントとニーズ			
第11-12回：Death & Dying Care、スピリチュアルケアと看取りケア			
第13回：エンドオブライフにある家族ケア、遺族ケア			

第14-15回：エンドオブライフにある患者と家族へのケアに関する事例検討、まとめ

テキスト

必要に応じて授業内で提示及び配布する。

参考書・参考資料等

1. 小笠原知枝編（2018）．エンドオブライフケア看護学 - 基礎と実践 - ．ヌーヴェルヒロカワ出版
2. 長江弘子編（2018）．看護にいかすエンド・オブ・ライフケア 第2版．日本看護協会出版会
3. 平原佐斗司、桑田美代子編（2019）．認知症の緩和ケア（EOLC for ALL すべての人にエンドオブライフケアの光を）．南山堂
4. 津田徹、平原佐斗司編（2017）．非がん性呼吸器疾患の緩和ケア：すべての人にエンドオブライフケアの光を！．南山堂
5. 大石醒悟、高田弥寿子、竹原歩、平原佐斗司編（2020）．心不全の緩和ケア：心不全患者の人生に寄り添う医療（EOLC for ALL すべての人にエンドオブライフケアの光を）．南山堂

学生に対する評価

1. 授業中の質疑・討議40%
2. 情報収集・分析30%
3. 課題に関する資料作成と発表30%

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
実践看護学特別研究	選択科目	4単位	山根友絵、宮田延実 深谷久子、加藤亜妃子
MI			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める	養護に関する科目		
科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。 講義・演習を通して、看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育などについてとり組み知見を深める。MI では研究のプロセスを理解し、研究計画書を作成する。研究のプロセスは、①研究テーマと目的の決定、②研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集法 ③データ分析法 ④研究の精度を保つ質管理方法 ⑤研究計画書の作成までとする。 【到達目標】 1. 演習において実践看護学に関する研究論文の検討を行い、履修者相互の専門的な知見を深める 2. 演習において実践看護学に関する研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、決定できる 3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる 4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる 5. 実践看護学分野の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を研究計画発表会で発表できる			
授業の概要			
本科目の目的は、実践看護学（生涯発達看護学領域、エンドオブライフケア看護学領域）において、科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけることである。講義・演習を通して今まで学んできた知識を深め、看護活動の改善・改革につながることをめざして先進的な課題に対する実践的研究にとり組み、適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究計画発表会での発表を目指す。 （山根友絵） 主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術に関する研究、②セルフネグレクト予防のための地域			

見守り基準の有効性、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する実態調査研究などである。

(宮田延実)

学童期から前思春期の発達段階の子どもを中心として、成長発達にかかわる心理的变化や相互の関係性をテーマとする研究を指導する。研究手法としては、対象者の現象の量的理解をめざして、量的研究方法を主に用いる。仮説の検証や予測をおこない、要素と要素間の因果的傾向や蓋然性で表現する。

(深谷久子)

こどもとその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。発達段階からみたこどもの看護過程、先天性の疾患をもつこどもと家族の看護に関する研究、NICUにおけるファミリーケア・NICU 医療チームと家族の協働、子育て支援、こどもの看護ケアや家族への支援、健康に課題のあるこどものきょうだい支援、健康に課題のあるこどもと家族がかかえる課題等、こどもと家族に関連した学生自身が興味関心のある分野の研究を探究する。研究手法としては、看護の対象者の内的体験を正確により深く理解するための質的研究方法を主に用いる。

(加藤亜妃子)

がん看護学、緩和ケア、在宅緩和ケア、エンドオブライフケアに関するテーマ、特にエンドオブライフにあるがん患者とその家族へのケアに関する研究を指導する。研究手法は、テーマに合わせた手法を取り入れるが、主に質的研究のアプローチを用いて探求する。

授業計画

- 1 - 10 講義・演習を通じて実践看護学に関する専門的な知見を深める
- 11-15 研究疑問の明確化 (1) : 関心のある臨床場
 研究疑問の明確化 (2) : 問いの発見
 研究疑問の明確化 (3) : 問いの洗練
- 16-23 文献検討
 国内の文献クリティーク、国内の研究論文のまとめ
 海外の文献クリティーク、海外の研究論文のまとめ
 研究テーマの検討 (1) : 研究の背景に関する検討
 研究テーマの検討 (2) : 文献レビューのまとめ
 研究テーマの検討 (3) : 研究目的と課題の明確化
 研究テーマの検討 (4) : 研究課題の意義と必要性の検討

	研究テーマと目的を決定：（自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。）
24-25	研究方法論の検討（１）：既存の研究アプローチ 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討
26-30	研究方法論の検討（２）：研究施設と研究協力者 研究方法論の検討（３）：研究協力者の募り方 研究方法論の検討（４）：データ収集と分析の方法 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集方法と分析方法を選択
31-32	研究における倫理的配慮（１）：研究協力者の脆弱性に対する配慮 研究における倫理的配慮（２）：個人情報保護のための配慮 研究における倫理的配慮（３）：研究参加における不利益に対する配慮 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法
33-34	研究計画書の検討（１）：研究計画書の書き方
34-48	研究計画書の検討（２）：研究計画書作成の実際
49-52	研究計画書の検討（３）：研究計画発表会にむけた準備・発表・討議
53-60	研究計画書の検討（４）：発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また、実践看護学分野のテーマ関連の教員が参加し助言のもと、研究計画書を完成する。
テキスト	
教員は、必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
１．授業中の質疑・討議 10％　２．文献クリティーク 20％　３．情報収集・分析 30％	
４．研究計画書の作成と発表40％	

授業科目名： 実践看護学特別研究 MⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 山根友絵、宮田延実 深谷久子、加藤亜妃子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
1． 演習において、MⅠで得た知見を基盤に実践看護学に関する研究論文の検討を行い、履修者相互の専門的な知見をさらに深め、研究テーマにつなげる 2． 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる 3． 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる 4． 適切な図表を加えて結果をまとめることができる 5． 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる 6． 研究目的から結論までの論旨の一貫性と信頼性・妥当性が確認できる 7． 「中間発表会」「最終発表会」において、評価を受け、論文を修正することができる 8． 学位論文を作成することができる			
授業の概要 特別研究MⅡは、講義・演習においてMⅠで得た知見を基盤として専門的知識をさらに深めるとともに、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究にとり組む。科学的思考力を備えた看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。そのために研究を実施し、中間・最終発表会で研究について発表する過程を経て、研究論文を完成させる。 (山根友絵) 主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術に関する研究、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の有効性、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する実態調査研究などである。 (宮田延実) 学童期から前思春期の発達段階の子どもを中心として、成長発達にかかわる心理的变化や相互の関係性をテーマとする研究を指導する。研究手法としては、対象者の現象の量的理解をめざして、量的研究方法を主に用いる。仮説の検証や予測をおこない、要素と要素間の因果的傾向や蓋然性で表現する。			

(深谷久子)

こどもとその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。発達段階からみたこどもの看護過程、先天性の疾患をもつこどもと家族の看護に関する研究、NICU におけるファミリーケア・NICU 医療チームと家族の協働、子育て支援、こどもの看護ケアや家族への支援、健康に課題のあるこどものきょうだい支援、健康に課題のあるこどもと家族がかかえる課題等、こどもと家族に関連した学生自身が興味関心のある分野の研究を探究する。研究手法としては、看護の対象者の内的体験を正確により深く理解するための質的研究方法を主に用いる。

(加藤亜妃子)

がん看護学、緩和ケア、在宅緩和ケア、エンドオブライフケアに関するテーマ、特にエンドオブライフにあるがん患者とその家族へのケアに関する研究を指導する。研究方法は、テーマに合わせた手法を取り入れるが、主に質的研究のアプローチを用いて探求する。

授業計画

- 1-10 演習を通じて実践看護学に関する専門的な知見をより深め、共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを紹介し、研究計画に沿って研究の実施準備
- 11-20 研究の精度を保つ方法でデータを収集。
- 21-35 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化し、研究結果に基づいて適切な考察と結論を導き論理的にまとめる
- 36-43 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討。
- 44-50 発表会において適切な準備の上で発表・討論。
- 51-60 発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する。

テキスト

教員は、必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

1. 授業中の質疑・討議 30% 2. 課題に関する資料作成と発表 70%

授業科目名：地域看護学特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：巽あさみ、肥後恵美子、松原紀子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 地域看護活動で用いる理論と概念を理解し、地域における健康課題抽出ができる。			
2. 地域看護学における研究方法を理解できる。			
3. 学校保健分野における対象コミュニティの診断が分かり、健康課題を抽出できる。			
4. 学校保健分野におけるエビデンスに基づいた介入方法を説明できる。			
5. 在宅看護におけるケアシステムについてアウトカム指標を用いた評価方法を説明できる。			
6. 在宅ケア利用者と家族の意思決定支援、および質の高いサービス提供のための運営・管理方法が理解できる。			
授業の概要			
衆衛生看護学のコアとなる理論と実践技術を、論理的な柱に添って学習する。また、個と集団、集団・組織等、国内・外の先駆的な活動実践例より地域看護・公衆衛生看護に必要な能力を獲得する。			
在宅看護活動に必要な諸概念と在宅ケア利用者の満足度、リスク要因、意思決定支援、及びアウトカム評価の学習に併せて国内外の在宅ケアシステムを学び在宅看護に必要な実践力を体系的に獲得する。			
授業計画			
(第1回～5回：巽あさみ) (第6回～10回：松原紀子) (第11回～15回：肥後恵美子)			
第1回：地域看護学の基盤となる考え方 地域看護システムで用いる理論と基盤となる概念			
第2回：プライマリ・ヘルスケアにおける地域看護の役割について			
第3回：ヘルスプロモーションとその展開方法			
第4回：公衆衛生看護活動の実践における個人・家族、集団・地域・組織支援について、施策化や保健計画、組織間・他組織連携と協働活動について			
第5回：地域看護学における研究方法の理論や特徴			
第6回：学校保健分野における対象コミュニティの診断と方策			

第7回：ヘルスプロモーションの理念による具体的健康づくり 第8回：子ども実態からみた子どもと家族への包括的支援システム 第9回：チーム学校と学校保健活動の展開 第10回：学校保健分野におけるエビデンスに基づく介入方法と研究 第11回：諸外国の在宅ケアの制度・サービスシステム・看護の機能とわが国の在宅看護の特徴と動向、課題 第12回：在宅看護に関連する諸概念の理解 第13回：在宅療養におけるリスク要因と管理、及び心身アウトカムと在宅看護 第14回：病院から在宅への移行支援を含めた在宅ケア利用者と家族の意思決定支援 第15回：在宅看護を含めた在宅ケアの質管理のためのアウトカム評価方法と、訪問看護ステーションにおける質の高いサービス提供のための運営・管理方法
テキスト その都度資料配布
参考書・参考資料等 その都度提示する
学生に対する評価 1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%

授業科目名： 学校保健特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮田延実・松原紀子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
学校保健に係る現状と課題や中核的役割を果たす養護教諭の職務について分析し、今後の対策を検討する過程で問題解決能力と研究能力を身に付ける。			
授業の概要			
子どもを取り巻く様々な環境の変化を受け、児童生徒の健康課題は明らかに変貌を遂げた。それに伴い学校保健に対する社会的なニーズや子どものニーズも変化してきた。望ましい学校保健のあり方・進め方について、現在かかえている学校保健の諸問題や課題を、学校教育や学校保健組織活動、家庭・地域・専門機関との連携などの諸側面、学校保健の中核とされる養護教諭との関連を通して理解する。以上、本特論では、学校保健に係る現状と課題について分析し、今後の対策を検討する過程で問題解決能力と研究能力を養う。			
授業計画（第1～5回、第11回～15回 松原紀子）（第6回～10回宮田延実）			
第1回：健康の概念・定義、歴史的変遷、健康へのニーズと課題			
第2回：現代的な健康課題と健康ニーズにからみた学校保健の意義・目的・特質、学校保健の領域、学校教育と学校保健との関連			
第3回：学習指導要領からみた近年の学校保健の動向			
第4回：児童生徒の健康サーバランスからみた学校保健の現状			
第5回：医療的ケアの現状・学校保健と看護職の役割			
第6回：神経発達症群の諸相			
第7回：神経発達症群の子どもへの支援Ⅰ			
第8回：神経発達症群の子どもへの支援Ⅱ			
第9回：スクールカウンセリングⅠ			
第10回：スクールカウンセリングⅡ			
第11回：スクールソーシャルワークの視点理解			
第12回：養護教諭に関する近年の施策と専門性			
第13回：養護教諭に必要な資質能力の抽出			
第14回：養護教諭のキャリアと能力			
第15回：発表・講評・まとめ			

テキスト

その都度必要な資料配布

参考書・参考資料等

- ・学校保健の課題とその対応 令和2年度改訂 日本学校保健会
- ・児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書（隔年度毎発行）日本学校保健会
- ・現代的健康課題を抱える子供たちへの支援 ～養護教諭の役割を中心として～ 文部科学省
- ・生徒指導提要 文部科学省

学生に対する評価

授業中の討論・課題レポート40%、情報収集・分析30%、課題レポートと発表30%

授業科目名： 学校保健演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮田延実・松原紀子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
講義をまじえながら、事例の振り返り、具体的展開を習得する。また、文献を中心に学修を深め、学校保健学分野の実践や研究に活用する方法について習得する。			
授業の概要			
学校保健特論で、学校保健に係る現状と課題について分析し、今後の対策を検討する過程で問題解決能力と研究能力を養った。この能力・理論を基に学校保健活動における具体的展開方法を習得する。			
授業計画（第1回～8回、第11回～15回 松原紀子）（第9・10回 宮田延実）			
第1回：学校保健分野における生活上の課題・体・心の実態把握とその評価			
第2回：生活習慣に関する指導におけるチームアプローチとその課題			
第3回：慢性疾患児におけるケアとマネジメント			
第4回：慢性疾患児における多職種とのチームアプローチとその課題			
第5回：アレルギー疾患児童生徒のケアとマネジメント			
第6回：アレルギー疾患児童生徒へのチームアプローチとその課題			
第7回：医療的ケアにおけるケアとマネジメント			
第8回：医療的ケアにおける多職種とのチームアプローチとその課題			
第9回：保健室で扱える心理テストとアセスメントⅠ			
第10回：保健室で扱える心理テストとアセスメントⅡ			
第11回：健康相談活動に関する事例検討、保健指導の検討Ⅰ			
事例を基に健康相談活動の考察			
第12回：健康相談活動に関する事例検討、保健指導の検討Ⅱ			
事例を基に個別保健指導案の作成・考察			
第13回：学校保健上の課題の設定Ⅰ			
学校保健上の課題を1つ設定、現状分析・整理・課題解決の方策を学修			
第14回：学校保健上の課題の設定Ⅱ			
学校保健上の課題を1つ設定、現状分析・整理・課題解決の方策を学修			
第15回：プレゼンテーション・まとめ			
テキスト			

その都度必要な資料配布
参考書・参考資料等
・学校保健の動向（令和3年度版）日本学校保健会
・児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書（隔年度毎発行）日本学校保健会
・学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン 令和元年度改訂 日本学校保健会
学生に対する評価
課題への取り組み状況50%、情報収集・分析・課題レポートと発表50%

授業科目名：国際保健看護学特論M	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川　まり子
			担当形態： 単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
国際保健看護学を学ぶことによって近隣者もしくは世界の人々に平等なヘルスケアを提供することをめざす。そのために、国際社会においてヘルスの分野で活躍できる基礎を学び、それぞれの研究の背景に取り込む事や将来その実践リーダーや教育者へとつなげる事ができる。 このクラス終了時、（１）将来、国際社会においてヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶために、国際的なヘルスに関係する指標から、世界のヘルス状況をヘルスシステムと共に把握する。 （２）グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化看護を理解する。国境を越えて移動している人々の国家間のギャップと問題点を理解する。（３）看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況と問題点を理解し、その対策を検討できる。（４）国内において国際保健看護学のイニシアチブをとることが出来る。			
授業の概要			
国際的な視点を踏まえた内容がそれぞれの研究の中に評価される形で組み込まれるよう学ぶ。自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める。授業は、国際保健看護学の専門的な知識をより深める。内容は、国際保健看護特論を学ぶ意義、世界のヘルスの指標、ヘルスの動向、グローバル化による人々の移動。日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点として外国人旅行者の対策、中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、中国人留学生を学ぶ。海外のヘルス事情では特に、発展国であるアメリカ東海岸への移民としてチベット人、カンボジア人、ラオス人の生活。途上国では、ケニアのスラムにおけるヘルス事情、ベトナムのヘルス事情、難民キャンプ場における現状と対策。海外のヘルス事情授業①～⑦のシリーズで深める。最後にまとめとして、レポート作成とプレゼンテーション・討論をおこなうことにより、具体的に習得できるようにする。			
第１回　国際保健看護学を学ぶ意義、動向、世界のヘルス指標、			
第２回　世界のヘルス事情①　看護の先駆者　フランス人ジェン・マウス、世界のヘルスの歴史的展開と現代の課題。将来に向けて。SDG’s　ゴールに向けた世界の動きと日本			
第３回　世界のヘルス事情②　国際的な医療経済とヘルスシステム：医療のアクセス			
第４回　世界のヘルス事情③　ヘルスと教育、ジェンダー問題			
第５回　世界のヘルス事情④　ジェンダーの問題、世界の人口と家族計画、FGM の概要			

第6回 世界のヘルス事情⑤ 世界の人権、テロ、少年兵士の問題、ヘルスと教育、孤児 第7回 世界のヘルス事情⑥：途上国の環境とヘルスの問題：ケニアのスラムにあるキベラにおけるヘルス事情、感染症 第8回 世界のヘルス事情⑦：発展国のヘルス問題：肥満（特にアメリカやオーストラリ）、他 第9回 文化人類学・医療人類学と共に学ぶ健康や病気のとらえ方 第10回 グローバル化の中での人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点：中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、増加する中国人留学生の特徴。海外の移民：アメリカ東海岸への移民：チベット人、カンボジアン人、ラオス人の生活 第11回 グローバル化による人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのケアの実際。外国人旅行者の対策を含める 第12回 住民：アボリジニーやアメリカインディアンの生活や社会的背景に由来するヘルスへの影響 第13回 紛争による問題：難民保健（シリア、スーダン等の難民キャンプでのヘルスや ICN による看護師の移動図書等。 第14回 まとめ 第15回 プレゼンテーション・討論
テキスト 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013)ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版、¥10
参考書・参考資料等 <資料> Christina Harlan (2014). Global Health Nursing: Narratives from the Field, Springer Pub Co, New York. ISBN-13: 978-0826121172 ¥6650 <u>デイヴィッド ワーナー</u>, 若井 晋 (翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論ISBN13:978-4794804228 ¥3990 イシメール・ベア, <u>忠平美幸</u> (翻訳)『戦場から生きのびて ぼくは少年兵士だった』河出書房新社 (2008). ISBN-13: 978-4309204864 ¥1728 西川まり子『目で見える国際看護』DVD I II III, 医学映像教育センター(2012)¥29400 x3 その他、クラスに合わせて、本や論文を適宜配布
学生に対する評価 クラスへの参加度 20% ②テーマごとのレポート (小レポート) 25%、③一つの国もしくはテーマでのレポートと発表 45%、④地図のクイズ 10%

授業科目名：広域看護学特別研究M I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名：巽あさみ、西川 まり子、松原紀子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 演習において広域看護学に関する研究論文の検討を行い、履修者相互の専門的な知見を深める			
2. 演習において広域看護学に関する研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、決定できる			
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる			
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる			
5. 広域看護学分野の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を研究計画発表会で発表できる			
授業の概要			
本科目は、広域看護（地域看護）の質保証をめざして、講義・演習を通して看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。広い視点が持てるように専門的視点から科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究計画発表会での発表を目指す。			
(巽あさみ)			
地域住民の健康づくり、乳幼児虐待、生活習慣病の重度化予防、産業保健・看護分野における研究、睡眠保健指導、地域と職域連携推進に関する研究をテーマに質的研究または記述統計、多変量解析などを用いて研究指導を行う。			
(西川まり子)			
グローバル化に伴う地域保健、医療・看護における課題、国際感染症等をテーマに、先行研究を総括し、独自の研究課題、研究デザイン、研究手法等の考案、研究成果についての多面的な視点からの考察などを踏まえた研究計画書を作成する。			
(松原紀子)			
学校保健学領域に視点をあて、様々な状況にある児童生徒等の健康や発達支援に関わる研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいて研究計画を立案、適切な調査法によるデータ収集、質的			

また量的な手法による分析を通して、研究論文作成のプロセスが主体的に進められるように研究指導を行う

授業計画

1-20 講義・演習を通じて広域看護学に関する専門的な知見を深める
 21-23 研究テーマと目的を決定：（自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。
 24-27 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討
 28-30 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択
 31-35 データ分析法の選択
 36-41 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法
 42-48 研究計画書を作成
 49-52 研究計画発表会において準備・発表・討論
 53-60 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、教員の助言の下、研究計画書を完成。

テキスト

教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。

参考書・参考資料等

学生に対する評価

1. 授業中の質疑・討議40%、2. 文献検討と課題の抽出30%、3. 研究計画書の作成30%

授業科目名：広域看護学特別研究MⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 巽あさみ、西川まり子、松原紀子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 演習において、MⅠで得た知見を基盤に広域看護学に関する研究論文の検討を行い、履修者相互の専門的な知見をさらに深め、研究テーマにつなげる			
2. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる			
3. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる			
4. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる			
5. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる			
6. 研究目的から結論までの論旨の一貫性と信頼性・妥当性が確認できる			
7. 「中間発表会」「最終発表会」において、評価を受け、論文を修正することができる			
8. 学位論文を作成することができる			
授業の概要			
特別研究MⅡでは、講義・演習においてMⅠで得た知見を基盤として専門的知識をさらに深めるとともに、研究計画書に沿った広域看護学の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。広い視野を持ち、専門的視点から科学的思考力と研究能力と看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な能力を身につける。そのために研究を実施し、中間・最終発表会で研究について発表する過程を経て、研究論文を完成させる。			
(巽あさみ)			
地域住民の健康づくり、乳幼児虐待、生活習慣病の重度化予防、産業保健・看護分野における研究、睡眠保健指導、地域と職域連携推進に関する研究をテーマに質的研究または記述統計、多変量解析などを用いて研究指導を行う。			
(西川まり子)			
グローバル化に伴う地域保健、医療・看護における課題、国際感染症等をテーマに、先行研究を総括し、独自の研究課題、研究デザイン、研究手法等の考案、研究成果についての多面的な視点からの考察などを踏まえた研究計画書を作成する。			
(松原紀子)			

学校保健学領域に視点をあて、様々な状況にある児童生徒等の健康や発達支援に関わる研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいて研究計画を立案、適切な調査法によるデータ収集、質的また量的な手法による分析を通して、研究論文作成のプロセスが主体的に進められるように研究指導を行う。

授業計画

- 1-10 演習を通じて広域看護学に関する専門的な知見をより深め、共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを紹介し、研究計画に沿って研究の実施準備
- 11-20 研究の精度を保つ方法でデータを収集
- 21-35 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化し、研究結果に基づいて適切な考察と結論を導き論理的にまとめる
- 36-43 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討
- 44-50 論文発表会において適切な準備の上で発表・討論
- 51-60 発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する

テキスト

教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

1. 授業中の質疑・討議、2. 研究発表と質疑応答30%、3. 論文の作成30%